

車社会

車社会とは、通常は、移動手段が自家用車に依存している社会を言うが、ここでは、車が形成する社会について考察する。

車に個性があり、車の所有に価値のある社会では、車が一種の社会を形成する。

車の個性の観点からは、商用バス、商用トラック、商用バン、自家用スポーツカー、自家用クーペ、自家用セダンというのが大体の分類であつたと思われ。車好きであれば、トンネル内でテールランプを見ただけで車種を判別できるほど、車に個性があつた。どのような分類の車にも個性があり、運転者は車にも運転にも誇りを持っていた。

車の所有者の観点からは、特に東京においては、運輸支局名に強烈なアイデンティティがあると言われている。人にもよるだろうが、東京では、他県ナンバーや他支局ナンバーに対する風当たりが強いと言われる場合がある。一方、分類番号にも大きな意味があり、一桁のいわゆるシングル・ナンバーに対しては、ただただ尊敬の念しかない。

「わ」「れ」の普及や自動車教習所における褒める指導などが相まって、車が相対化され、車社会への参入障壁が低くなったように思われる。これは、株式会社設立時の資本金が、以前は最低1,000万円必要だったが、現在は1円でも可である事と似た面があるように思われる。

江 幡 淳